



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー⑦

なかざわいくお
中澤郁夫さんプロフィール

有限会社中沢商店 代表取締役

昭和49年生まれ。屋代南高校、国土建設学院設備工学科・土木工学科卒。専門学校時代に発生した『阪神淡路大震災』を目の当たりにし、自身が携わる管工事・設備業が社会生活のライフラインとしていかに大切かを痛感したという。最近は新規工事にとどまらず、継続的な保守点検業務にも力を入れるなど新たな事業展開を模索している。お母様と奥様、2人の女の子の5人家族。趣味は学生時代にはじめたオートバイ・ジムカーナ競技。

設備メンテナンスを通じて 住宅や建物の『ホームドクター』 を目指す



急逝されたお父様の遺志を継ぎ、若くして祖父が創業した会社の経営を任された中澤郁夫さん。学生時代に目の当たりにした『阪神淡路大震災』の経験が仕事に携わる上で大きな柱になっていとおっしゃいます。

御社のこれまでの足跡をお聞かせください。

「当社は祖父が昭和32年に創業し、私で3代目です。当初は農業や農機具を扱う店でしたが、農薬を散布する際に、消毒用水の配管を設置する需要があり、それから徐々に畑灌用水や町営水道、家庭用上下水道など管工事全般を取り扱うようになりました。坂城は工業の町ですから工場向けの設備が多く、普及率の低かった下水道の需要もあって業績は堅調でした。私が戻ってきた頃はオリンピックの特需や消費税の駆け込み特需があり、下水道や道路等のインフラ整備が進められた時代でした。しかしその後はなだらかに下降線をたどっている、というのが現状ですね」

中澤社長が会社を継がれたのはいつですか？

「中学、高校の頃、建設業は3Kといわれ敬遠され、父からは「家業を継がなくてもいい」といわれていました。しかし自分としては祖父と父が築いてきたこの仕事を守りたいと思い、高校卒業後は東京の国土建設学院に入りました。そこで設備を2年、土木を2年学び、実家に戻りまして。ところが2年程して父が急逝したことから家業を継いだのです。祖父やまわりの方々のおかげがあって、どうにかやってこられた、というのが今の実感です」

これまでお仕事をされて印象に残っていることはありますか？

「学生時代に『阪神淡路大震災』が発生しました。非常に衝撃を受けましたね。ショッキングな光景や実態は授業でも取り上げられ、自分たちがやっている土木、設備がいかに市民生活に大切なものかを痛感しました。この仕事を続けていく上で肝に銘じておかなければならない教訓になっています」

今後の抱負、事業の方向性等をお聞かせください。

「リーマンショック以降は設備投資の落ち込みもあって厳しい状況です。これまでのように新規着工の増加は見込めませんが、工場設備にしても一般住宅にしても、これからは設備全般の維持管理や修繕といった事業にシフトしていきたいですね。設備機器についていえば、耐久性のある製品が増えていきます。より良い製品をいかに長く使っていただけかが大切だと思っています。そのためには計画的なメンテナンスがますます重要になります。それに合わせて、例えば住宅なら設備のメンテナンスでご家庭を訪問させていただく際、我々の専門分野だけでなく、建物や外構、庭まわりの点検も一緒に、気付いた点があればお客様にアドバイスさせていただき、といったサービスもあってほしい。いわば『住まいのホームドクター』です。そういうきめ細かなサービスを行的にいくことで、事業の安定化を図ることもできるのではないかと考えています」